

GTI コンソーシアムにおける人材育成

—FPT 大学との事例より—

Fostering Human Resources in the GTI Consortium:

A Case Study of Cooperation with FPT University

芝浦工業大学国際部 SGU 推進課 仙波 亮典

SEMBA Ryosuke

(SGU Initiatives Section, Division of Global Initiatives, Shibaura Institute of Technology)

キーワード：GTI コンソーシアム、産学官連携、人材育成、海外の大学との交流

1. はじめに

芝浦工業大学は2014年度に、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択された。その中で、新たな理工系人材育成モデル、「SHIBAURA モデル」を世界に発信することを掲げている。「SHIBAURA モデル」は教員・学生が相互に価値を共創していく価値共創型教育、アジア工科大学トップ10を目標とした世界水準の大学制度及び、国内、東南アジアを中心とした産学官連携のアライアンスであるGTI (Global Technology Initiative) コンソーシアムの運営から構成されている。ここではGTI コンソーシアムの運営に焦点を絞り紹介する。

2. GTI 構想設立の背景

本学は、1927年の創立以来、「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を建学の理念に、日本経済を支える理工系人材の育成に取り組んできた。そして、グローバル社会においては、世界との協調が重要との視点から、東南アジアの工科大学との連携を進め、2005年には、英語による修士・博士学位取得のハイブリッドツィニングプログラムを開始し、2006年にはSEATUC (South East Asian Technology University Consortium) を発足させる等、東南アジアにおける工科大学の教員育成にも取り組んできた。

また、現在のグローバル化は、産業の発達とともに急速に加速しており、社会活動、経済活動は単一の国家で完結するものではなくなっている。そして国際社会の持続的発展は、産業界における競争

の結果として創出されるイノベーションによって担保される。このイノベーションを創出させるためには、社会でのニーズを的確に捉え、その課題について様々な角度から検討し、その解決を図る人材の育成が必要である。そのような人材を育てるには、ひとつの大学が単独で行うのではなく、国内外の多くの大学と産業界、政府機関が連携することが重要だと考え、国際的な産学官連携アライアンスであるGTIコンソーシアムを設立した。SEATUCで培った強力な関係、また主旨に賛同する国内の産業界、政府機関の協力を得て2015年12月にGTIコンソーシアムは正式に発足することとなった。

3. GTI コンソーシアムの目的及び活動

GTI コンソーシアムでは国内外の産学官が連携し、実践的な教育を提供することにより以下の4点を目的としている。

(1) 理工学教育の質の向上

国内外の産学官が連携し、実践的な教育を提供することで、理工学教育の質の向上を図る。

(2) 人材の育成と輩出

質保証された理工学教育により、グローバルエンジニアを育成し、輩出する。

(3) イノベーションの創出

グローバルエンジニアが世界をフィールドに活躍することでイノベーションを創出する。

(4) 産業競争力の強化

グローバルエンジニアによって創出されたイノベーションにより、産業競争力を強化する。

これらの目的を達成するために必要な活動については、特に制限なく実施していく予定であるが、当面は、以下の6つを主な活動として想定している。

① グローバルPBL（国際プロジェクト実践教育）

プログラムに参加する学生が、複数の国籍からなるチームを形成し、企業における現場の課題や途上国が直面する社会課題などを取り上げ、課題解決のための方策を議論し、成果発表を実施。課題の設定や解決方法の議論は、大学教員及び産業界、政府機関からの派遣講師の指導の下で行い、問題解決能力を有するグローバル理工系人材の育成を目指す。

② 国際インターンシップ

自国外のオフィスや工場などで学生が実習することで、文化や考え方の多様性を体験し、多面的な視点からものごとを俯瞰する能力を育成するとともに、現場における課題発見や問題解決実習を通して、グローバル理工系人材を育成する。

③ 国際共同研究

GTI コンソーシアムの加盟大学および企業による、東南アジアや世界の持続的発展などに関する国際共同研究を推進し、イノベーションの創出を目指す。

④ 政府間協カプロジェクト

各国の開発支援プロジェクトや研究協カプロジェクトにGTI コンソーシアムの加盟機関が参画するとともに、GTI コンソーシアムから各国のニーズに即した政府間協カプロジェクトの提案を行う。

⑤ 大学間国際連携

GTI コンソーシアムに加盟する大学間での教員の相互交流、日本のものづくり技術を根幹とするグローバル工学教育の普及、海外大学院生の日本での学位取得や大学間での共同学位の取得などを進め、国際交流を推進する。

⑥ GTI コンソーシアムシンポジウム

GTI コンソーシアムにおける諸活動の情報共有とさらなる発展を目的として、年に1回シンポジウムを開催する。国内外の政府機関、産業界、大学関係者からの講演、およびコンソーシアムにおける諸活動の成果報告などを主な内容とする。

4. FPT グループとの産学連携活動

GTI コンソーシアムにおける活動の一例として特に活発にプログラムを実施している、FPT グループとの産学連携活動を紹介したいと思う。

(1) FPT Corporation および FPT 大学概要

① FPT Corporation について

FPT Corporation は1988年に設立されたベトナムで有数の企業の1つである。主なビジネスはソフトウェア開発、電子・遠距離通信であるが、その他に不動産や教育分野も手掛けている。ベトナムの主たる都市で事業を展開するとともに、日本、アメリカ、フランス、ドイツ、シンガポール等、19カ国に支社がありグローバルな展開をしている。

② FPT 大学について

FPT 大学はFPT Corporationの100パーセント出資により2006年に設立された大学である。また、ベトナムで始めて企業によって設立された大学でもある。ハノイ、ホーチミン、ダナンにキャンパスがあり、18,000人以上の学生が在籍しICTやビジネスの教育を提供している。また、全ての授業が英語で行われており、英語力が十分でない学生のための英語の教育課程も有している。

なお、ハノイキャンパスはホアラックハイテクパーク工業団地内に位置している。ホアラックハイテクパーク工業団地はHi-tech Industrial Zone、Software Park、Research&Development Zone、Education&Training Zone や Residential and Office Area 等から構成されている。1998年、政府に国家レベルのハイテク開発と応用の研究センターのモデルとして設立の決定を認可され、研究開発、ソフトウェア、教育訓練、住宅、オフィス、ハイテクサービスなど機能領域を含むハイ

テク製品の製造業とも取引を行い、人材育成と高度な技術開発が行われている。(Sailing Master.com <http://www.sailing-master.com/?cat=0031>)

FPT 大学は GTI コンソーシアムの主旨に賛同し、コンソーシアムの設立をきっかけに本学と協定を結んだ大学である。そのため、交流の期間は短いが下記の通り、2016 年度夏季休暇には国際インターンシップ、英語研修と 2 件のプログラムを実施し、2016 年度春季休暇にはグローバル PBL が計画されている。

(2) FPT 大学との産学官連携プログラムについて

① 国際インターンシップ

2016 年夏季休暇期間に、本学情報工学科の学生がハノイにある FPT ソフトウェアで 2 週間の国際インターンシップに参加した。大学ではプログラミングやソフトウェア開発等、IT に関する勉強をしており、そのバックグラウンドを活かし、専門的な仕様書の翻訳業務や通訳業務等を行った。このプログラムに参加した学生は、以前にも本学の海外派遣プログラムへ参加しており、語学力には自信があり、将来は海外での勤務を視野に入れている。実際に国際インターンシップを経験することで、様々な国や地域、文化を持った人々とチームを組み、自分とは異なる文化を持つ人たちのニーズに応えられるソフトウェア開発者になりたいと強く感じるようになるという、非常に貴重な経験をした。

② 英語研修

国際インターンシップと同様に 2016 年夏季休暇期間に本学の学生が 4 週間の英語研修に参加した。この英語研修は、FPT 大学において英語で行われている授業に対応するために準備されている英語の予備教育を、協定校の学生にも開放しているというものである。本学では英語を母国語とするアメリカやオーストラリアでの英語研修だけではなく、多くの理工系人材が実際にビジネスを行う機会が多い東南アジアにおいても英語研修を行っている。このプログラムに参加した学生は、日本人が 1 人しかいない環境での学習や、クラスメイトのベトナム人と親密な関係を築くことにより、今後の英語学習や再度留学することへのモチベーションが上がるのと同時に、肌で異文化を感じることができた。

③ グローバル PBL

2016 年春季休暇(2017 年 2 月から 3 月)に本学情報工学科、電子情報システム学科と FPT 大学を中心としてハノイにおいてグローバル PBL を実施する。このプログラムでは、GTI コンソーシアムのコンセプトである国際的な産学官連携の形として、ホアラックハイテクパーク工業団地内での企業見学や FPT corporation による課題設定が計画されている。また、FPT 大学と本学だけに参加学生を限定することなく、GTI コンソーシアム加盟大学の学生にも本プログラムへの参加を呼び

かけていく予定である。

5. 最後に

今回の投稿では、FPT 大学とのプログラムを主に記載したが、GTI コンソーシアムとしては、これ以外にも国際インターンシップや企業に課題設定をしていただくグローバル PBL 等を実施している。一方で、GTI コンソーシアムの活動に参加している日本の学生の多くは本学の学生である。グローバルエンジニアを育成するためには、本学だけでなく、国内の他大学を含め、産学官の様々な機関と連携を進めていく必要性を感じている。また、GTI コンソーシアムの活動やメリットを本学だけに留めるのではなく、広く共有できればと考える。そのためにも今後は様々な機会を通じ、実施したプログラムを活用した広報活動を実施するなど、外から見た際に活動をわかりやすくしていく。その一つとして、2016年12月8日には、「世界から見た GTI コンソーシアム」をテーマに芝浦工業大学豊洲キャンパスでシンポジウムを開催する。このシンポジウムでは FPT 大学を含め、複数の海外機関から GTI コンソーシアムをどのように活用しようと考えているかなどについて講演をいただく予定である。そして、GTI コンソーシアムの構想を広く周知するとともに、既に実施した各種活動を振り返り具体的イメージを形成し、今後の活動に繋げたいと考えている。GTI コンソーシアムに興味をお持ちの方はぜひシンポジウムに出席いただければと思う。そして、今後も主旨に賛同いただける方々とともに、理工系人材の育成を進めていきたいと考える。